

社会における大学が果たすべき役割を考える
- イノベーションの担い手をどう育成するか -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴き頂き、ありがとうございます。

今日は、これからの大学にはどのようなものが期待されるのかというテーマでお話させていただきます。

2. 社会における大学が果たすべき役割を考える - イノベーションの担い手をどう育成するか -

私も会員として参加させて頂いている東京にある社団法人の経済同友会に教育問題委員会というのがあります。教育問題委員会では、この1年間をかけて、日本のイノベーションを担う人材の育成に向けて、教育の視点から大学を変えてもらいたいというテーマで、1か月に2回ほど議論をしてきました。委員長は、ニチレイの浦野社長です。その中でどのような議論がされているのかを少しご紹介させていただきます。

(1) これからの社会で求められる力には、いろいろな力があると思います。社会の中で自らの能力を生かして挑戦するための基礎となる力や意欲など、人としての価値観を含む本質的な要素を重視したい、これが皆さんの合意事項であります。特に多様な力が大切だと思うのです。例えば「高い倫理観」が求められます。社会においては、人と人、人と自然との関わりの中で生きていきますので、その基礎になる価値観が大切だと思います。それから、「高い志」も大切です。人生において何を実現するのか、具体的にはどのような分野で自らの能力を發揮して、それらを通じて世の中にどのように貢献していくのかという意味と、「自律心」つまり自分自身を律する心が、高い志に含まれるのではないかと。また、「熱意」や「意欲」も大切です。自らの志を追求して新しいことや変化、そして困難に挑戦する姿勢、これを熱意、意欲というように考えます。さらに、「問題発見能力」と「問題を解決する力」も大切であると思います。社会全般または特定の分野を高いところから見る力、それから日々の暮らしに対する観察などを通じて、自ら新しい課題を発見する「課題発見能力」、さらに、答えのない問題・解のない問題にも粘り強く取り組み、自分で考えて解決方法を追求する「問題解決能力」も大切です。

(2) また、ただ問題や課題を解決すればよいというのではなく、「問題解決の方法論」も大切だと思います。事実分析や道徳的思考、例えば仮説を立ててそれを検証していくというように問題を解決するために必要な一連のスキルというか技術が求められます。仕事をしていく上では、

試行錯誤をしながら、また挫折に耐えながら力強く生きていくことが必要ですので、この「問題解決の方法論」を身につけることも大切になるのです。

(3)さらに、「みんなで働く、共同して働く共同力」も大切です。自分の考えや認識を他の人に的確且つ効果的に伝え、相手の考えや意見に耳を傾けて尊重する「コミュニケーション」が大切です。対話を通じて理解・納得を得、みんなで共同して仕事をする。つまり、協同・協働環境が大切です。共に働くという環境を構築する、これも力です。

(4)それから、「既存のものに対する批判力」というか、「既に存在するものへの批判力」も大切です。既に存在している制度やしきみ、与えられた情報を鵜呑みにしないで、自分独自の観点・視点から検証することで新しい解答を導き出すことも大切です。

(5)さらに、国際性、国際社会と日本との関わり、異文化の多様な価値観を理解し尊重する姿勢も大切です。その中でとりわけ大事なことは、語学力です。もちろん世界各地の様々な言語も大切ですが、世界の共通語である英語をまずは正確に身につけた上で幅広い人々と会話をする能力が大切です。英語以外の言語も確実に身につけることの重要性は言うまでもありませんが、まずは英語と私は考えます。

(6)最後に、人それぞれの個性や特性、才能も大事です。他の人と異なる自分の個性や特性、得意分野を見出し、そこから自分の良さ、自分のすばらしさを自分自身で見つけて追求する。そして、もっともっと伸ばすと同時に、他の人の個性や独自性、すばらしさ、オリジナリティーをきちんと評価して、自分と同じように他の人も尊重する。つまり、人それぞれの個性や特性、才能を引き伸ばし、尊重することが、これからの社会で求められる力であるという議論がありました。

社会の中で自らの能力を生かして挑戦するための基礎となる力や意欲など、人としての価値観を含む本質的な要素こそを大学では重視してもらいたい。基礎力、あるいは人間力という言葉がありますが、経済同友会という経済団体では、これからの大学をどのようにするか随分議論しました。

(7)このように、能力や資質の醸成育成のためには、人が生まれ成長していくすべての過程を通じて、家庭や学校、社会など幅広いところに利害関係者が参加することで初めて達成することができるわけです。その中で一番大切なことは、今までやってきたことをそれ以上に発展させるイノベーションです。今までやっていたことに対して、これでよいと満足せずに、一回は否定して、改革を推し進めるという「イノベーションを支える人材」がいないと本当に困ってしまいます。ですから、そのイノベーションを支える人材育成を目指す教育改革全体を引っばるような使命を、大学には強く期待しているのです。

(8)大学も、今変わりつつあります。大学に入りたい18歳の方と大学の定員が2007年にはちょうど同じになってしまい、入りたい方は誰でもどこかの大学に入れるような状態になってしま

いました。それでよいと思わないで、大学の内容を変えて頂きたい、大学をこのようにして頂きたいと皆で強く意見を言うことによって、大学も変わって頂ければと思います。

3. おわりに

(1) 栃木県には、全部で 18 の高等教育機関があり、25,000 名の学生が勉強しています。栃木県の大学に希望することがありましたら、皆さんも大学の学長や教授にどんどん意見を言って頂き、尚かつ栃木県の大学のすばらしさを見つけて頂いて、私の希望ですができれば栃木県内の方は県内の高等教育機関に進学して立派に勉強して頂ければ有り難いと思います。

(2) また、社会に出た方も、放送大学を含めていくらでも大学で勉強するチャンスがあります。50 歳、60 歳、70 歳、80 歳になっても、10 年刻みで 1 回くらい大学に戻るようなつもりでどんどん大学を活用して頂ければと思います。

[コメント]

私の好きな言葉に、「一生勉強、一生青春」、「いつまでも若々しく生きる」、「教育ある人とは一生勉強し続ける人」がある。高い志を持ち、自分を律しながら、人生の成功と社会の持続的発展のために生涯を通して様々なところで自分自身の勉強の仕方を身につけながら学び続けることが大切なのではないかと私は考える。

- 2009 年 4 月 9 日林明夫記 -